

学位論文要約

中国山東省における高級中学生の大学進学に関する研究

広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻 教育社会学分野

D164230 張慶怡

I、論文題目

中国山東省における高級中学生の大学進学に関する研究

II、論文の構成

序章 本研究の課題

第1節 「社会階層と教育」研究の蓄積

第2節 中国における社会階層と大学進学機会に関する研究の課題

第3節 本研究の課題と目的

第1章 中国の大学生募集制度

第1節 問題の所在

第2節 先行研究の検討

第3節 中国の大学生募集制度

第4節 省別募集制度による進学機会の省間格差

第5節 まとめと考察

第2章 中国の大学入試における「受験移民問題」-「受験移民」の動機や生徒本人への影響に着目して

第1節 問題の所在

第2節 先行研究の整理と検討

第3節 研究の結果

第4節 まとめと考察

第3章 大学進学機会の県間格差とその固定化傾向

第1節 問題の所在

第2節 省内格差研究の現状

第3節 山東省における大学進学機会の幻像

第4節 研究の概要

第5節 山東省内における一期募集校の上線率の格差

第6節 まとめと考察

第4章 高級中学生の属性と学習行動

第1節 問題の所在

第2節 質問紙調査の概要

第3節 対象者の属性—階層分布の高級中学間格差

第4節 高級中学段階の学業成績に対する出身階層の影響

第5節 高級中学生の学習行動

第6節 まとめ

第5章 高級中学生の進路選択と大学進学意欲

第1節 問題の所在

第2節 高級中学生の進路選択

第3節 統計的に見る出身階層の分布、進路選択などにおける高級中学間格差

第4節 進学意欲の規定要因—教育機会の分化メカニズム

第5節 まとめと考察

第6章 「家族依存型」の教育システム—弱まる「学校」の役割

第1節 問題の所在

第2節 研究方法とデータの概要

第3節 質問紙調査の結果

第4節 学校教育と授業外教育投資の新動向—インタビュー調査の結果を用いて

第5節 まとめ

終章 要約と今後の課題

第1節 要約

第2節 考察

第3節 今後の課題

【引用・参考文献】

Ⅲ、論文の要旨

序章 研究の目的と研究方法

本研究の目的は、中国における大学進学機会の地理的な格差、及び出身階層¹などの社会的な要素による格差の実態や原因メカニズムを解明することである。事例として、中国の東部沿岸地域にある省—山東省²に焦点を当てる。

¹ 中国社会科学院が公表した「当代中国社会階層研究レポート」2002年によれば、中国の階層は、国と社会管理者階層、経営者階層、私営企業主階層、専門技術要員階層、事務要員階層、個人経営商工業者階層、商業サービス業従業員階層、産業労働者階層、農業勤労者階層、都市無職、失業、半失業者階層とされている。

² 中国の行政区画は「省>市（市内区を含む）>県>鎮>村」となっている。

教育社会学ではいわゆる「格差社会論」が2000年代頃に登場するはるか前から、社会階層・階級と教育に関して多くの研究を蓄積してきた（平沢ら 2013）。教育と社会階層のつながりに関する先行研究はおおむね、二つの分野に分けられる。つまり、1) 教育達成の階層間格差の存在を示す研究、2) その階層間格差の生成・維持のメカニズムを検証する研究である。教育達成の階層間格差の存在を示す研究の分野では MMI 仮説 (Maximally Maintained Inequality) (Raftery and Hout 1993) や EMI 仮説 (Effectively Maintained Inequality) (Lucas 2001) などが提唱されている。また、教育達成の階層間格差の生成・維持のメカニズムを検証する理論や研究の中で、出身階層から進学・学歴の格差に帰結するまでの媒介メカニズムを説明する有力説として相対的リスク回避説、トラッキング説、文化資本論、ウィスコンシン・モデルなどがあげられる（鹿又 2013）。

中国において、大学進学機会の格差に関する研究は、概して、大学生を対象とする大学進学機会の階層間格差（趙 2009 など）、ならびに省別大学生募集制度による大学進学機会の地域間格差とその解決策（曹ら 2016, 李 2010, 梁 2000 など）の面でなされてきた。これらの先行研究は、中国における大学進学機会の格差問題を概観することにおいて重要であった。ところが、同時に以下の限界を内包してきた。第一に、EMI 仮説を検証し、教育達成の階層間格差の存在を示すにとどまっていることである。第二に、階層研究の調査対象がほぼ大学生に限られていることである。第三に、学校教育資源（高級中学の序列化）に視線を限定していることである。第四に、先行研究では、大学進学機会の地域間格差に関する研究は主に文化大革命から90年代までの状況、ならびに21世紀初頭の状況についての論述にとどまっていることである。第五に、先行研究では、地理的な格差が階層間格差に転換する可能性が見出されていないことである。

先行研究を整理したうえで、本研究では大きく2つの研究課題を設定した。つまり、1) 省間格差と省内県間格差に分けて大学進学機会の地理的な格差と新たな動向を明確にすること（第1章～第3章）、および2) 出身階層をはじめとする社会経済的な要素による高等教育機会の格差の原因メカニズムを分析すること（第4章～第6章）である。

なお、本研究の研究対象として焦点を当てたのは、第1章を除き、東部省である山東省である。

山東省は東部沿岸地域にあり、ほかの東部沿岸地域にある省と比べ、省内における沿岸部都市と内陸部都市の経済的、教育的な格差が大きい（詳細は第3章で後述する）。また、山東省において、高級中学への進学率は96%に達しているが、公立普通科高級中学間で大きな差異が生じているため、上位校への進学競争は依然として激しい状況にある。そして毎年、大学入試における山東省の受験者数がほかの東部省を圧倒している。211大学への進学機会において、（内陸の省と比べ）省内の市・県間や階層間で大きな格差が見られている。そこで、山東省は一定の程度で大学進学機会の格差問題が深刻な省として中国を代表することができよう。また、山東省を例にして、中国における教育機会の分化に対する学校ランクと社会階層などの効果の一端を窺うことができ

ると考えられる。

第1章 中国の大学生募集制度

第1章から第2章までは、中国の大学入試制度、ならびに省別大学生募集制度による進学機会の省間格差を分析し(1章)、それを背景とする「受験移民問題」について検討する(2章)。まず本章では、中国の大学生募集制度、とくにその中の「省別定員割当制度」による大学進学機会の省間格差について検討する。本章は先行研究で検討されてきた90年代や21世紀初頭における進学機会の省間格差を踏まえ、中国現在の進学機会の省間格差の実態を明らかにした。

結果から見れば、高等教育機関の増設や募集定員の拡大が行われているにもかかわらず、中央所管の重点大学の省間分布は依然としてバランスがとられておらず、1992年と比べ、中央所管大学が学生募集をする際における「地元利益」は依然として改善されていない。また、「地元利益」の原因として、大学が地方からの財政支援に対する「報酬」として所在地により多くの定員数を割り当てていることがあげられる。つまり、地方に配分される定員数を決める要因は所在地政府と国の教育部からの財政支援の割合となっている。

第2章 省別募集制度や戸籍制度による「受験移民問題」

本章の目的は、中国における省別大学生募集制度による進学機会の省間格差を背景とする「受験移民問題」について生徒と保護者の視点から検討し、「受験移民」の動機および生徒本人に対する影響を明らかにすることである。分析の結果、中国において、教育機会の省間格差が階層間格差に転換しつつあることが明らかにされた。

「受験移民」の概念に関して、王ら(2011)は以下のように定義している。「受験移民」とは、高等教育機関への進学機会を獲得するために、割り当て定員が少ない省から割り当て定員が多く、合格しやすい省へ戸籍を移すこと、あるいは国籍を変えて留学生として重点大学への進学機会を獲得することである。

本章で明らかにしたように、マスメディアや報道は「受験移民」を「(他人の進学機会を不正に奪うことで)努力しなくても良い大学に進学することができる行動」として取り上げ、「受験移民」をする受験生がどのような悪影響を受け、どのような困難に直面するのかを無視している。このような取り上げ方は逆に「受験移民」行為を助長している。しかし、「受験移民」たちはそのプロセスの中で困難に直面し、「受験移民」の経験は「呪縛」のように続き、彼・彼女らの就職活動にまで影響を与えている。さらに、本研究の結果から、高い階層はすでに国の政策を利用できる「利益の道具」として使い、教育機会の格差構造を維持しつつあることが窺える。教育機会の省間格差が階層間格差に転換しつつあり、中国における教育機会の階層間格差が拡大している。

第3章 大学進学機会の省内県間格差

本章の目的は、山東省内における大学進学機会の県間格差の実態を解明することである。分析の結果、「一期募集校」³の進学機会の省内県間格差の大きさは省間に生じた格差を超えるものであり、しかもその格差には固定化傾向が見られることが明らかにされた。

本章は、山東省内の33県の進学データに基づき、山東省内における一期募集校の進学機会の格差を検討した。また、全体的な大学進学率が上昇しつつある中、選抜機能がますます強くなっている中国高等教育機関の最上位である（大学グループの）一期募集校に着目し、地域による進学機会の格差が形成されている背景、またその変化傾向について分析した。

本章の結果から見れば、山東省の平均的な進学率が全国では上位に入っているにもかかわらず、省内の内陸部には進学状況が非常に厳しい県がある。また、2007年から2016年にかけて、一期募集校への進学機会は各県の経済社会指標との相関を次第に強めることで格差が固定されてきた。競争緩和政策の実施により進学機会が逆に減少したグループは（各市内区を除く）所属県、とくに農村部の高中生徒であることも明らかになっている。

第4章 高級中学生の属性と学習行動

第4章と第5章の目的は、中国の高級中学段階における教育機会の分化メカニズムを明らかにすることである。4章、5章を通して、出身階層から進学・学歴の格差に帰結するまでの媒介メカニズムを説明するトラッキング理論などを中国の文脈で検証し、「出身階層→高級中学トラック→高等教育トラック」の媒介関係を明らかにした。まず本章では、各高級中学における階層分布、対象生徒の学習行動の分化について概観した。

分析の結果、高い階層出身の子どもが質のいい高級中学教育資源を獲得している。また、中位校と下位校において、生徒の学業成績は親の学歴と職業により序列化される傾向が見られず、一方、上位校において、異なる出身階層の間、生徒の学業成績に大きな差が存在していることがわかった。さらに、高級中学生の学習行動の階層間・学校間分化はとくに学校外の学習で顕在化していることが分かった。ここから明らかになったのは、高い階層出身者はすでに「学校」だけに依存するのではなく、競争の手段を学校外の塾など、大学入試により有利な教育機関に移行させていることである。

第5章 高級中学生の進路選択と大学進学意欲

³ 中国語固有名詞、新入生募集期間がもっとも早い重点大学のグループを指す。以下「」略す。

本章では、前章に続き、高級中学生の進路選択の実態や進学意欲の規定要因を分析した。分析の結果、学習行動は生徒の進学意欲に効果を与えていないのに対し、学校ランクや学業成績など、ならびに親の教育年数が進学意欲に対して直接的に強く影響していることが明らかになっている。

具体的には、高級中学生の進路選択と（大学進学の場合）専攻選択の実像、大学のレベルと大学の所在地に対する期待、ならびに大学教育に対する期待を概観し、さらに、進学意欲の規定要因についてロジスティック回帰分析により検討した。

第4章、第5章の結果により、現在の中国における教育機会の分化メカニズムを一定の程度まで解明したと言えよう。まず、高い階層はランクが高い高級中学の教育資源を手に入れている。その上、学校内、とくに高い階層の子どもが集中している上位校において、学業成績を通してさらに階層間格差構造を維持している。次に、大学進学希望が全体的に高まっているが、一流大学に進学する意欲に対する学校ランクや成績の影響が明らかにされた。各レベルの高級中学間における一流大学への進学率の差も加え、高等教育進学の分岐に対しては、高級中学で分岐したトラックが強い影響力を持っている。ここから、トラッキング理論は中国の高級中学段階における教育機会の分化において有効だと言えよう。

また、4章と5章の結果により、EMI 仮説を中国の文脈で検証することができよう。高級中学ランクに対する影響は言うまでもなく、出身階層はかつてのように、大学へ「進学するか否か」という選択に影響を与えているのではない。現在はすでに「質の高い教育機会を獲得できるか否か」に根本的な効果を与えつつある。さらに、6章でも検証するように、学校ランクにとどまらず、学校外の教育投資の面においても、質的な差を通して格差構造を維持している。

第6章 「家族依存型」の教育システム—弱まる「学校」の役割

高級中学生の視点から教育機会の分化メカニズムを解明した上で、6章において、保護者や教員の視点から「家族依存型」の教育システムの形成傾向をさらに検証した。分析の結果、教育期待や授業外教育投資の各具体面における階層間格差が確認された。

本章では、高級中学生の保護者に対する質問紙調査（教育期待と教育投資）とその結果を補うためのインタビュー調査を実施した。質問紙調査の結果により、「教育期待」、「学校教育」、「授業外教育投資」、「コネと社会関係の利用」、「代替的な進路ルート」の5つの面において、出身階層間に格差が存在していることを確認した。低い階層ほど、学校の授業と宿題にもっと頼っており、また、「大学」段階を子どもの教育生涯の「終点」として認識し、大学の卒業証書に「保障」の役割を果たさせたいという「目的性」が高い。コネや社会関係を利用して子供により良い進学機会を求めることや、代替的な進路（留学など）を提供することにおいても明確な差が見られた。

さらに、異なる学歴の親が子どもの授業外教育に投資する際に、「授業外投資を始める年」、「授

業外投資に使うお金」、「授業外投資の種類」、「教育投資の基準」の4つの面において明確な差が現れている。また、教員に対して実施したインタビュー調査の結果から、中国において、高い階層の出身者は学校内教育資源にとどまらず、学校外における質の高い教育資源まで獲得することで教育機会の格差構造を維持していることをさらに検証することができる。逆に、学校教育に依存してきた農村部生徒の立場が10年前と比べ不利になっていることが読み取れる。これらの結果により、中国の教育システムは「学校依存」から「家族依存」に変わりつつあることが窺えよう。つまり、学校教育は徐々に貧困・格差を断ち切るための手段として機能しなくなっていくのではないかと考えられる。

終章 考察

本研究の知見について、以下のように考察することができよう。

(1) 全国を対象とした格差研究が主流となっている中、本研究は省内格差の検証を試み、その必要性和重要性を指摘した。(2) 学校教育は徐々に貧困・格差を断ち切るための手段として機能しなくなったとはいえ、今日の中国において、教育の平等化に貢献できるのはやはり学校教育であると本研究の知見から推察できる。学校は不平等の再生産に寄与するよりも、平等化に貢献する(Downey et al 2004)という事象は中国においても生じている可能性が高い。(3) 教育機会の階層間格差が大学の「水平的分化」を利用して形を変えつつあり、維持されている(張、林 2014)。また、211大学の割り当て定員が少ない山東省においては、受験移民問題がエスカレートし、コネや経済能力を利用して「裏入学」をするなどの問題もほかの省より深刻である可能性がある。ゆえに、地理的な格差と階層間格差を結びつけながら解決策を探らねばならない。(4) 今後、本研究で解明された地理的な格差とそれによる社会問題、ならびに階層間格差を踏まえ、解決策が求められよう。例えば、211大学が貧困県などに対して設けている特別募集枠を、山東省の県(特に農村部人口が多い県)に割り当てることで「受験移民」の問題を解決し、さらに「学校教育」を平等化に貢献する場として活用することが解決策の一つとなろう。

【主要引用・参考文献】

- 荒牧草平, 2002, 「現代高校生の学習意欲と進路希望の形成」『教育社会学研究』第71集, 東洋館出版社, 5-23頁。
- 鮑威, 2010, 「大学的門檻: 升学選擇背后的約束因素与分析」『教育发展研究』第17期, 24-30頁。
- Boudon. Raymond, 1973, *L'inégalité des chances, La mobilité sociale dans les sociétés industrielles*. Armond Colin. (=1983, 杉本一郎・山本剛郎・草壁八郎訳『機會の不平等: 産業社会における教育と社会移動』新曜社)。
- Bourdieu. P, 1970, *La reproduction*. (=1991, 宮島喬訳『再生産』藤原書店)。
- Bourdieu. P, 1977, *Cultural Reproduction and Social Reproduction, Power and Ideology in Education*, New York: Oxford University Press, pp. 487-511.
- 曹妍・張瑞娟, 2016, 「我国一流大学的入学机会及其地区差异: 2008-2015」『華南師範大学学報』No. 4, 52-65頁。
- 樊本富, 2007, 「社會學視角下的高考移民問題」『教育与考試』第3期, 25-28頁。
- 藤原翔, 2015, 「進学率の上昇は進路希望の社会経済的格差を縮小させたのか-2002年と2012年の比較分析」『格差社会の中の高校生』21-36頁, 勁草書房。
- 平沢和司・古田和久・藤原翔, 2013, 「社会階層と教育研究の動向と課題-高学歴化社会における格差の構造」『教育社会学研究』第93集, 東洋館出版社, 151-191頁。
- 侯龍龍・薛澜, 2009, 「我国高等教育地区差別的実証分析」『北京大学教育評論』(1) 151-159頁。
- 石井光夫, 2014, 「中国の大学入試改革と学力保証」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第9巻, 1-15頁。
- 岩井八郎・片岡栄美・志水宏吉, 1987, 「『階層と教育』研究の動向」『教育社会学研究』第42集, 東洋館出版社, 106-134頁。
- 鹿毛雅治, 2013, 『学習意欲の理論-動機づけの教育心理学』金子書房。
- 鹿又伸夫, 2013, 「出身階層と学歴格差: 階層論的説明の比較」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要: 社会学心理学教育学: 人間と社会の探求』No 76, 1-28頁。
- 荻谷剛彦, 2001, 『階層化日本と教育危機-不平等再生産から意欲格差社会へ』有信堂。
- 片岡栄美, 1992, 「社会階層と文化的再生産」『理論と方法』第9集, 33-54頁。
- 李立峰, 2007, 『中国高校招生考试中的区域公平研究』經濟科学出版社, 170-192頁。
- 李木洲, 2014, 『高考改革的歷史反思-基于制度變遷的視角』華中師範大学出版社。
- Lucas. Samuel R, 2001, *Effectively Maintained Inequality: Education Transitions, Track Mobility, and Social Background Effects*, *The American Journal of Sociology*, Vol.106, No. 6, pp.1642-1690.
- 耳塚寛明, 2000, 「進路選擇の構造と変容」樋田大二郎・耳塚寛明・岩木秀夫・荻谷剛彦編『高校生文化と進路形成の変容』学事出版, 65-82頁。
- 中村高康・平沢和司・荒牧草平・中澤涉, 2018, 『教育と社会階層 ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会。
- 中澤涉, 2009, 「進学アスピレーションに対するトラッキングと入試制度の影響」『東洋大学社会学部紀要』46巻, 81-94頁。
- 中澤 涉, 2018, 「日本の教育選擇における EMI 仮説の検証」『2015年SSM調査報告』113-134頁。

- 小野寺香, 2007, 「中国の大学入試における格差是正措置」, 小川佳万編『アジアの大学入試における格差是正措置』広島大学高等教育研究開発センター, 25-38 頁。
- 小川佳万, 1994, 「中国における少数民族高等教育政策—「優遇」と「統制」のメカニズム」『比較教育学研究』(20) 93-104 頁。
- 大塚豊, 1979, 「中国における大学生募集制度に関する一考察 -1952-65 年度の募集規定の分析を中心として-」『日本比較教育学会紀要』5 号, 92-98 頁。
- 山田浩之・葛城浩一編, 2007, 『現代大学生の学習行動』広島大学高等教育研究開発センター。
- 張慶怡, 2018, 「中国山東省内における一期募集校進学機会の格差」『教育学研究ジャーナル』第 23 号, 9-18 頁。
- 趙宏斌, 2009, 「中国高等教育規模省級区域分布的差異性研究—基于泰尔指数的比较」『中国高教研究』第 12 期, 23-27 頁。